

みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成27年11月6日(金)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 指宿校区公民館
- 参加者数 : 【市民】55人、【市職員】市長ほか14人、【総計】70人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 意見交換
- 4 地域代表あいさつ
- 5 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

今年、指宿校区もコミュニティのモデル地区になった。当初、検討委員会の委員に小・中学校のPTA会長・副会長、校区の老人会長、女性部代表等、色々な役職の方17名にお願いした。その後、校区内に住んでいる市職員にもお願いし、館長を含め55人で立ち上げている。指宿市のコミュニティはどうあるべきか、市長の考えを聞かせてもらいたい。

<市長>

子供で地域は結ばれるのに、子供もいなくなった。そして、子供を大切にしない地域も出てきた。そこで新たなコミュニティを作ろうとしたのが、串良の柳谷集落であった。子供のことを褒めだすと、親同士も仲良くなった。それが発端となり、みんなで作ったからいもで「やねだん」という焼酎をつくり、集落に方にボーナスを支給するようになった。その集落長の豊重さんが、「地域で、子供会も女性の活動もできない時代がくる。そうなったときに、新たなコミュニティという大きな枠で地域活動をしていかなければならない。講演を聞いていた指宿の方々の目の色が違う。指宿ならできるはずだ」と話してくれた。

昔は、地域が子供で満ちあふれていて元気だった。それが、なくなりつつあるので、新たな地域づくりの拠点、そしてその拠点で、頑張る人をつくる必要がある。物・人・金がないと、新しいコミュニティはできない。そういう地域を再編する努力をしないと、5年後、10年後には地域はどうなるかという危機感を持っている。指宿校区には素地があるので、特にできると思っている。やはり、子供は地域を結ぶ核になる。子供がいなくなると、地域は離れてしまう。

【市民】

昔は海水浴場がたくさんあったが、今は1件もない。遠泳に参加した子供の話を聞くと、初めて海で泳いだ、苦い、足が着かないという感想だった。2年前の語る会のときに市長は、「これは、大人の責任だ。海水浴場設置を検討する」と言った。現在、どのようになっているのか。子供たちが、かわいそうである。

<市長>

指宿港の整備計画の中に、海水浴場の整備も入っている。

<建設部参与>

指宿港海岸のワークショップの中でも、海水浴場が欲しいという市民からの意見があった。

<市長>

海水浴場は、指宿にとって必要である。必ず整備したい。

【市民】

以前は、休暇村の所にも海水浴場があった。海上保安署も、休暇村の海岸等を海水浴場にしても特に問題はないと言っている。他に海水浴場をつくと、何か困ることがあるのか。また、指宿港海岸の整備事業は保全が一番であるので、他に海水浴場があると計画から海水浴場がなくなることがあるのか。

<市長>

指宿は東洋のハワイと言われており、ハワイといえば海水浴場や海で遊ぶ明るいイメージである。観光、防災、そして市民のふれあいの広場という観点で整備をしたい。

<市民福祉担当副市長>

サンビーチ指宿の海水浴場をやめた大きな理由は、石によるけが人の増加と、砂浜が侵食されてなくなったことである。他にも適した場所がないか検討してきたが、きれいで泳げる海であれば砂浜をつくった所を海水浴場として整備することが望ましいと思っている。

【市民】

沖合いで砂を採取する業者がいる。砂を取れば、どこからか砂が流れていく。また、川の護岸工事が進み、川から流れ込む砂がなくなってきている。砂浜がなくならなければテトラもいらぬが、道路を走っていると満潮時もテトラが見えており見苦しい。東洋のハワイと売り出すのであればいかがなものか。

<市長>

子供たちに貴重な海を体験させたい、我々が楽しんだ海を取り戻してもらいたいという意見だと思う。指宿港を含めた港湾整備の際には、十分に配慮していきたい。

【市民】

以前、今和泉小学校の下の浜は埋め立てをしたが、なくなってきている。埋め立てをしても、砂浜がどうなるか心配である。

<建設部長>

今和泉の海岸では、砂の移動等によりとられている状況が見られる。しかし、今回の指宿港海岸の整備については、国の直轄事業であり、あらゆる先生方が潮の流れ等の検証を行っている。今後、離岸堤や護岸をつくって養浜をしていくが、そこでも色々な検証を行い砂が流出しないよう対策を講じることになっているので心配していない。

<市長>

砂の採取については、色々な話合いの場にもっていききたい。私は、宮ヶ浜や吹越の浜を思い出す。そのような自然を残す必要があると思っている。色々意見を聞かせていただきたい。

【市民】

ある自治体では、高齢者にタブレットを持たせて館長や民生委員等とコミュニケーションをとる実験をしていた。そのようなツールを使って、高齢者が若い人たちとコミュニケーションをとるような仕組みを考えてもらいたい。

<市長>

葉っぱビジネスでもうかっている上勝町でも、高齢者がタブレットを活用している。この方に来ていただき、指宿でもできないものか研修会もした。高齢者が自分たちで少しでも稼いで、子や孫にお年玉等をあげると元気になり、タブレットを使うことで脳トレにもなると聞いている。モデル的な取組をしていきたい。

【市民】

加工品や特産品のPRや販路拡大に努めているとのことだが、ふるさと納税の返礼品も2か月ほど前にやっと始まった。納税額が10億円を超えている自治体もある。これは、あくまでもツールであり、アイデア勝負だと思う。ファンを多く確保するために、市はどのような取組を行っているのか。また、納税者に対してメルマガ等は発行しているのか。

<産業振興部長>

ふるさと割引事業を10月から始めた。また、一昨年前から特産品係をつくり、販路拡大を図るために都会のバイヤー等呼んで展示会を行ったり、都会での展示会に指宿市内の業者を送り出し、その旅費についても補助を出している。8月1日からふるさと名品を始め、10月末日で400万円ほど特産品が売れており、手応えを感じている業者も多い。

さらに、指宿の農産物・特産品を中国に売り込もうと、今年度から香港をターゲットにして、南九州市、南さつま市、南大隅町と一緒に地場産品と観光のPRを今年度から3か年計画とする予定である。ふるさと納税も、返礼品の品をそろえることで寄附金額は確実に増加すると思う。特産品係とふるさと納税の担当係でタッグを組みながら、積極的にPRをして販路拡大を図りたい。

<総務部長>

今年の10月1日から、指宿市でもふるさと納税の返礼品事業を始めた。これまでは、1年間に約70人から600万～700万円の寄附金があった。返礼品事業を開始したところ、10月の1か月間だけで1,000万円を超える寄附金が集っている。ふるさと納税の返礼品には、かつお節や冷凍すりみ、さつまいも、焼酎、そらまめ、うなぎのかば焼、マンゴープリン、山川高校の加工品、おくら漬け、スイカ、マンゴー、指宿産の黒豚・黒牛、そしてホテルの食事券など80品目を出しており、今のところ、すりみやうなぎのかば焼き、農産品等が人気ようである。特産品については、今後も魅力ある商品を開発し、生産者とタイアップして指宿の魅力を売り込みたい。

また、ふるさと納税をしてくれた方には、広報誌を送るなど繋がりをもって納税してもらえよう努めているが、提案のあったメルマガ等についても検討していきたい。

<市長>

メルマガ等、色々なことに頑張りたい。これからも、色々な意見をいただきたい。

【市民】

新しいコミュニティづくりは、行政が主体となるのか。それとも、地域が主体となるのか。また、市はどのような進め方を考えているのか。具体的に何か示されているのか。

<市民生活部長>

平成22年12月に策定した「協働のまちづくり指針」の中で、人口減少が進む中で、地域の人々の幸せ度や満足度を維持・向上をさせるため、地域でしか解決できない、あるいは地域で取り組んだ方が良いと思われる課題や事業に対して、地域の責任で自主的・主体的に公共サービスの一部を担うと掲げられており、その担い手となるのが新しい地域コミュニティ組織である。

まずは、この地域コミュニティをモデル事業でしようということで、それぞれのモデル地区の住民ニーズや特性に配慮した取組をしていくために、新しい仕組みづくりをどうしたら良いかということを検討するのが、今回の委託事業である。行政が主導するのではなく、自分たちの地域は自分たちでつくっていく。全国的にも、行政主導で行った地域コミュニティは壊れているのが現状のようである。

福元区では、若い子育て世代の方を対象にワークショップを開き、どのような地域をつくっていけばいいか話し合っている。

柳田校区では、郷土芸能祭を発端として、地域づくりの取組を進めようとしている。

今和泉校区では、世代や立場を超えて交流できる場や機会を、文化祭の実行委員会で再現しながら実践活動をしている。

今回8月に、初めて指宿校区の会合が開かれて、地域づくりが必要な背景を知ることから始めた。9月には、地域の課題や解決方法に関するアンケートを行い、これを分析することで指宿校区の課題が浮き彫りになると思う。その課題解決に向けて、みんなで地域をつくっていくためのワークショップが始まることになる。

<市長>

高齢化や人口減少により、佐多、田代、内之浦では、20年前に危機感をもって新たなコミュニティづくりに取り組んだ。歩いていけるような集落で行事ができたり、地域の運動会ができたり、高齢者の集いができないかということで、私が内之浦で社会教育課長をしていた頃に取り組んだの

が、コミュニティセンター事業であった。そうしたところ、行事に出てくるようになり、子供を知り声かけができるようになった。また、高齢者世帯の状況など、行政は目が届かないきめ細かな情報が入るようになった。そうして、行政がしてきたことを地域がすることによって、よりきめ細かにすることができるようになった。

この地域で生きてきて良かったと思えるような地域をつくるのが、新しいコミュニティづくりの最終的な目的である。上手に集落センターのようなものをつくり、そこで調理ができて、地域が給食サービスを行うようになってくると、地域が結ばれてくると思う。集落が、自分たちの課題を解決するにはどうすれば良いか考えるようになるのが理想である。そういう地域づくりが、顔と顔が見える関係で活動を行っている指宿校区ならできる。人・物・金を、どのように地域づくりに使っていくか検討してもらいたい。今後の地域の課題を考えながら、新たなコミュニティをぜひつくってもらいたい。

【市民】

国や県からの補助金は、切られていくと思う。今後、市の収入も減少してくると収益事業を行わなければならない、指宿市では地熱しかないのではないだろうか。2年位のうちに計画を立て実行しなければ間に合わない。しかし、県も九州全体も地熱に関して困り込みをしているように思える。開発が遅れ、財政が破綻してしまうのではないか。

<市長>

様々な絡みがあると思うので、この場で議論するには難しい問題かもしれない。ただ、色々な事業を行うときには情報公開を行い、開かれた行政に努めていく。

【市民】

県が整備した宮ヶ浜公園の遊歩道は、北側からトイレまではタイルで舗装されているが、その先は、木製のブロックが腐食しめくれ上がっている。健幸のまちづくりのウォーキングコースとして活用している人等、利用者も大勢いるが舗装されるのか。

<市長>

先日、現場を確認した。健幸づくりの一番大切な部分でもある、海岸沿いで歩きたくなる遊歩道だ。

<建設部長>

宮ヶ浜公園の遊歩道については、昨年、一部補修を県に依頼した。残りの部分についても、県が随時補修を行っていくことになっている。意見については、県に伝えたい。

<市長>

担当とも一緒に、現場確認をした。雨が降ると滑るので、早く修復してもらおうようにしなければならない。

【市民】

去年は、今和泉から宮ヶ浜公園までの松の木 23 本が松枯れした。菜の花マラソンや菜の花マーチの参加者も驚いていた。きれいな海岸だということで、「指宿のたまたま箱」もゆっくりと走行している区間であるにもかかわらず、伐採するまでに時間がかかった。みんなで語ろ会をして意見を聞くまでもなく、職員が現状はわかっているはずだ。街灯の電気は切れっぱなし、遊歩道の板はめくれっぱなし。市の耕地林務課が枯れた松の伐採を行ったが、今日は南薩地域振興局の職員が、松くい虫予防の予算を立てるため、松の木のサイズを測りながら本数を数えていた。

市の土木課、環境政策課、まちづくり公社等、色々な方が関わりをもっており、要望をしようとしても、たらい回しにされる。どこが管理しているのか、はっきりして欲しい。踏み切り前の鉄柵は錆がひどいので早めに補修するよう提案しても、対応が遅いので基礎から全てやり直さなければならないと思う。

<市長>

みどりの少年団の活動等、非常に感謝している。最近、宮ヶ浜公園周辺を散歩しているので、遊歩道や松枯れのこともわかった。住民の想いに対して、早く対応してもらいたいという貴重な意

見である。そこは、対応していきたい。

<建設部長>

宮ヶ浜公園周辺の松については、今年も薬剤散布を行ったが、なかなか松枯れを防ぐことができない状況である。今後、どのように守っていくのか検討しなければならない。管理については、土木課土木公園管理係が管理しているので、色々と意見を聞かせてもらいたい。

【市民】

子供たちが家の中ばかりでなく、外で遊ぶことができる公園等があれば良いと思う。また、夜もウォーキングができ、駐車場も整備された公園ができないものか。

<市長>

私も、そう思う。新しいコミュニティの大きな役割は、子供が安心して遊ぶことができ、女性・高齢者がウォーキングをして健康になれるような場所を提供することである。

【市民】

夏祭りや運動会を、上手地区が合同でできるような公園があれば良いと思う。その際の公園までの移動については、市役所の方でマイクロバスを用意してもらうことはできないか。

<市長>

高齢者が移動するために、交通手段が必要だということはもっともである。

【市民】

コミュニティを活性化するには、館長だけの力ではだめである。防犯組合が活発な地域は、老人会まで含めて活動が良くなっていると思う。もう一度、防犯組合の活動を活性化させることはできないか。

現在、校区の防犯組合では、定期的に理事会を行い活動内容について議論している。活発なコミュニティにつながるような場をつくりたいと思うので、今度の理事会には館長にも参加してもらいたい。合併当初、山川・開間地域には防犯組合はなく活動が縮小した。警察や防犯協会とも連携を図りながら、活発に活動できればと思う。

<市長>

このような意見が出て、他の校区にも波及すれば良い。子供たちの登下校時の安全、高齢者の見守り等、様々な役割が防犯組合にはある。スクールゾーン委員会等で、もう一度、その役割を確認しながら、活動を見直す必要があるのではないだろうか。

【市民】

一昨日から3日間、県下の中学校・高校駅伝大会が開催されたが、地元の方々の応援が少ない。指宿市で、毎年開催してくれている。防災行政無線を活用すれば、応援も増えるのではないだろうか。

<市長>

本当に、貴重な意見である。必ず、それは実行したい。

【市民】

防災行政無線は話の間が空き過ぎていて、何を言っているのかわかりにくい。

<市長>

放送の仕方については、色々と実験をして一番良い方法を取り入れたい。

<総務部長>

色々な実験を行い、ゆっくりと話した方が反響もなく聞き取りやすいということで、現在の放送の仕方になっている。意見をいただきながら、聞きやすいかたちにしていきたい。

また、防災行政無線で様々な市の行事等のお知らせをしているが、うるさいという苦情もきている。できるだけ、市民に多くの情報をお知らせしたい。

【市民】

指宿市内でも、中国人観光客がホテルのいすを持ち帰るなどの被害が出ているようである。また、中国人観光客は大量に買い込むようであるが、指宿ではどのような状況か。

<市長>

中国、台湾、韓国等からの観光客は多い。その中でも、指宿で多いのは台湾からの観光客である。ホテルもだが、国同士の中で、日本のマナー・ルールを守ってもらう取組をしなければならない。

【市民】

市役所の職員が、「地域創生は、地域住民の皆さんが率先してすべきだ」というようなことを言う。何を考えているのか。本来は市の職員がすべきものであり、協力してくれという話ならわかる。

<市長>

役割を自覚して、地域創生における職員の役割を果たさなければならない。